

金剛証寺

ふるさとの風 ～水無月～

伊勢へ参らば 朝熊をかけよ 朝熊かけねば 片参り

とうたわれたように、伊勢参宮を済ませた人は朝熊岳に参詣するのが通例でした。

朝熊岳の山上にある金剛証寺は、勝峯山兜率院と号し、神宮の鬼門（北東）を守る寺であり、神宮の奥の院ともいわれます。

本尊は虚空蔵菩薩。

日本三虚空蔵の一つに数えられ、秘仏とされていますが、遷宮の翌年に二十一年に一度、ご開帳されます。

創建については諸説あり、欽明天皇の時、暁台上人がここで求聞持法（一般的に、虚空蔵菩薩に祈り、見聞したことを忘れないようにするもの）を修行したことに始まると伝えられます。この時、朝に熊、夕に虚空蔵菩薩が現われたため、「朝熊」という名が付けられたという伝説が残っています。

そして、天長2（825）年 弘法大師が中興、明徳3（1392）年 鎌倉建長寺の東岳文显（仏地禅師）が真言宗を臨済宗に改宗しました。

現在は紫陽花の名所として有名で、梅雨に入ると、降り続く雨に打たれ、その華々しさがより一層輝きを増す季節となります。

神垣や おもひもかけず ねはん像

芭蕉

- ◆ 朝熊岳金剛証寺典籍古文書 （川口素道／著 金剛証寺 L184／カ）
- ◆ 増補 伊勢の文学と歴史の散歩 （中川 ただ梵／著 古川書店 L902／ナ）
- ◆ 伊勢参宮名所図会 （蒔 関月／画・編 原田幹／校訂 国書刊行会 L290／シ）
- ◆ 朝熊岳概観史 -金剛証寺の歩み- （川口素道／監修 L184／ア）